



2025年5月27日

各 位

会 社 名 光村印刷株式会社
代表者名 代表取締役社長 嶋山 芳夫
(コード：7916 東証スタンダード市場)
問合せ先 経理本部長 藤川 和典
(TEL. 03-3492-1182)

**(訂正・数値データ訂正)「2025年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」の
一部訂正に関するお知らせ**

当社は、2025年5月13日に開示いたしました「2025年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部を訂正いたしましたので、お知らせいたします。

また、数値データ(XBRL)にも訂正がありましたので、訂正後の数値データも送信いたします。

記

1. 訂正の理由

「2025年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」の公表後に、当期の経営成績の概況および当連結会計年度のセグメント情報等の注記の記載において訂正すべき事項があることが判明したため、これを訂正するものです。

2. 訂正の内容

・添付資料2ページ

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

・添付資料13ページ

3. 連結財務諸表及び主な注記

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等)

なお、訂正箇所には____を付して表示しています。

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

(訂正前)

当連結会計年度におけるわが国の経済は、国内景気が緩やかな回復を示す一方、個人消費や設備投資の伸びは限定的であり、回復力にばらつきが見られました、世界経済は米国新政権の通商政策の先行き不透明感に加え、中国経済の先行き懸念、為替市場の変動などが重なり、先行き不透明な状況は依然として継続していました。

印刷業界におきましては、生活様式の変化に伴うデジタル化の加速による紙媒体の需要減少に加え、燃料費や原材料価格などの高騰は継続するなど、依然として厳しい状況が続いており、印刷技術を活用した新たな分野への進出を図っています。

当社におきましては、利益面に影響を及ぼすエネルギー価格や諸資材価格の高騰に対して得意先の理解を得ながら製品価格の適正化を推し進めています。また、オンデマンド印刷の潜在ニーズや推し活市場の広がりを受けて、LINEで簡単にフォトブック等のオリジナルアイテムを作れるサービス「日々レコ」（商標登録申請中）を開発し、営業活動を開始しました。生産面では、前連結会計年度において行った印刷工場の集約・統合の効果を発揮してグループ全体の機械稼働率の向上、内製化を図っています。

なお、スクリーン印刷機を使用した半導体加工テープなどの産業資材製造事業においては、一部の製品について本年1月より出荷を開始し、安定的な供給を継続しています。外部環境の影響により、得意先における需要見通しや開発スケジュールに調整が見られますが、その他の製品についても量産化に向けた技術的課題の解決に取り組んでいます。

また、当社が保有する北品川棟は、早期に不動産賃貸等事業に活用すべく、準備を進めています。

当連結会計年度の業績は、売上高は147億56百万円（前年同期比0.4%増）となりましたが、損益面では営業損失1億58百万円（前年同期は62百万円の損失）、経常損失49百万円（前年同期は56百万円の利益）となり、特別利益として投資有価証券売却益4億33百万円など4億71百万円、特別損失として減損損失2億13百万円など2億96百万円を計上した結果、親会社株主に帰属する当期純利益70百万円（前年同期比24.5%増）となりました。

セグメント別の経営成績を示すと次のとおりです。

なお、報告セグメントの事業内容をより適切に表示するため、「電子部品製造事業」から「産業資材・電子部品製造事業」に名称を変更しています。当該変更は名称変更のみであり、セグメント情報に与える影響はありません。また、当連結会計年度より、一部子会社の経営管理区分の変更に伴い、「印刷事業」に含めていた事業の一部を「不動産賃貸等事業」に変更しています。また、前連結会計年度のセグメント情報は、当該変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しています。

①印刷事業

自治体の刊行物や厚紙封筒等の増加があり、売上高140億69百万円（前年同期比0.6%増）、セグメント損失（営業損失）3億80百万円（前年同期は3億51百万円の損失）となりました。

②産業資材・電子部品製造事業

水晶業界関連業界への売上減少等により、売上高3億4百万円（前年同期比5.5%減）、セグメント損失（営業損失）38百万円（前年同期は0百万円の利益）となりました。

③不動産賃貸等事業

売上高5億43百万円（前年同期比4.6%減）、セグメント利益（営業利益）2億60百万円（前年同期比9.5%減）となりました。

(訂正後)

当連結会計年度におけるわが国の経済は、国内景気が緩やかな回復を示す一方、個人消費や設備投資の伸びは限定的であり、回復力にばらつきが見られました、世界経済は米国新政権の通商政策の先行き不透明感に加え、中国経済の先行き懸念、為替市場の変動などが重なり、先行き不透明な状況は依然として継続していました。

印刷業界におきましては、生活様式の変化に伴うデジタル化の加速による紙媒体の需要減少に加え、燃料費や原材料価格などの高騰は継続するなど、依然として厳しい状況が続いており、印刷技術を活用した新たな分野への進出を図っています。

当社におきましては、利益面に影響を及ぼすエネルギー価格や諸資材価格の高騰に対して得意先の理解を得ながら製品価格の適正化を推し進めています。また、オンデマンド印刷の潜在ニーズや推し活市場の広がりを受けて、LINEで簡単にフォトブック等のオリジナルアイテムを作れるサービス「日々レコ」（商標登録申請中）を開発し、営業活動を開始しました。生産面では、前連結会計年度において行った印刷工場の集約・統合の効果を発揮してグループ全体の機械稼働率の向上、内製化を図っています。

なお、スクリーン印刷機を使用した半導体加工テープなどの産業資材製造事業においては、一部の製品について本年1月より出荷を開始し、安定的な供給を継続しています。外部環境の影響により、得意先における需要見通しや開発スケジュールに調整が見られますが、その他の製品についても量産化に向けた技術的課題の解決に取り組んでいます。

また、当社が保有する北品川棟は、早期に不動産賃貸等事業に活用すべく、準備を進めています。

当連結会計年度の業績は、売上高は147億56百万円（前年同期比0.4%増）となりましたが、損益面では営業損失1億58百万円（前年同期は62百万円の損失）、経常損失49百万円（前年同期は56百万円の利益）となり、特別利益として投資有価証券売却益4億33百万円など4億71百万円、特別損失として減損損失2億13百万円など2億96百万円を計上した結果、親会社株主に帰属する当期純利益70百万円（前年同期比24.5%増）となりました。

セグメント別の経営成績を示すと次のとおりです。

なお、報告セグメントの事業内容をより適切に表示するため、「電子部品製造事業」から「産業資材・電子部品製造事業」に名称を変更しています。当該変更は名称変更のみであり、セグメント情報に与える影響はありません。また、当連結会計年度より、一部子会社の経営管理区分の変更に伴い、「印刷事業」に含めていた事業の一部を「不動産賃貸等事業」に変更しています。また、前連結会計年度のセグメント情報は、当該変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しています。

①印刷事業

自治体の刊行物や厚紙封筒等の増加があり、売上高140億69百万円（前年同期比0.6%増）、セグメント損失（営業損失）3億13百万円（前年同期は3億51百万円の損失）となりました。

②産業資材・電子部品製造事業

水晶業界関連業界への売上減少等により、売上高3億4百万円（前年同期比5.5%減）、セグメント損失（営業損失）1億5百万円（前年同期は0百万円の利益）となりました。

③不動産賃貸等事業

売上高5億43百万円（前年同期比4.6%減）、セグメント利益（営業利益）2億60百万円（前年同期比9.5%減）となりました。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等)

(訂正前)

II 当連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額	連結 財務諸表 計上額
	印刷	産業資材・ 電子部品製造	不動産賃貸等	計		
売上高						
外部顧客への売上高	14,069,313	304,494	382,695	14,756,503	—	14,756,503
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	161,026	161,026	△161,026	—
計	14,069,313	304,494	543,722	14,917,529	△161,026	14,756,503
セグメント利益又は損失(△)	△380,670	△38,655	260,529	△158,796	—	△158,796

(注) セグメント利益又は損失(△)は、連結損益計算書の営業損失と調整を行っています。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

報告セグメントの事業内容をより適切に表示するため、「電子部品製造事業」から「産業資材・電子部品製造事業」に名称を変更しています。当該変更は名称変更のみであり、セグメント情報に与える影響はありません。

また、当連結会計年度より、一部子会社の経営管理区分の変更に伴い、「印刷事業」に含めていた事業の一部を「不動産賃貸等事業」に変更しています。なお、前連結会計年度のセグメント情報は、当該変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しています。

(訂正後)

Ⅱ 当連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額	連結 財務諸表 計上額
	印刷	産業資材・ 電子部品製造	不動産賃貸等	計		
売上高						
外部顧客への売上高	14,069,313	304,494	382,695	14,756,503	—	14,756,503
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	161,026	161,026	△161,026	—
計	14,069,313	304,494	543,722	14,917,529	△161,026	14,756,503
セグメント利益又は損失(△)	△313,976	△105,348	260,529	△158,796	—	△158,796

(注) セグメント利益又は損失(△)は、連結損益計算書の営業損失と調整を行っています。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

報告セグメントの事業内容をより適切に表示するため、「電子部品製造事業」から「産業資材・電子部品製造事業」に名称を変更しています。当該変更は名称変更のみであり、セグメント情報に与える影響はありません。

また、当連結会計年度より、一部子会社の経営管理区分の変更に伴い、「印刷事業」に含めていた事業の一部を「不動産賃貸等事業」に変更しています。なお、前連結会計年度のセグメント情報は、当該変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しています。

以 上